

「全国に誇れる御成門中学校を創る」—世界に発信する—



御成門だより

令和元年10月1日 発行

第 6 号

発行責任者

港区立御成門中学校

校長 佐藤 太

教育目標 「豊かな心とたくましい体をもつ生徒」「自ら計画し進んで学習する生徒」「他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒」

〒105-0003 港区西新橋 3-25-30 電話 03-3436-3551 FAX03-3436-3552 E-Mail onarimon-js@minato-ky.ed.jp

時をどのように使うか

校長 佐藤 太

10月(神無月)、実りの秋です。9月21日(土)の50周年記念講演会では、御成門中学校7期卒業生で、1998年長野冬季オリンピックのシンボルマークをデザインした篠塚正典さんから貴重なお話を聞くことができました。シンボルマークが出来るまでの話や物事に取り組むときの大事な見方・考え方に留まらず、人としての生き方で大切な話が多くありました。篠塚さんは、講演の冒頭で「私は、御成門中学校3年間の美術の授業や学校行事のポスター制作などを通して、自分に本当に好きなことを見つけました。そして将来、グラフィックデザイナーになろうと決めました。ぜひ、皆さんも自分の好きなことに打ち込んでほしいと思います。好きなことを頑張っていれば、夢は絶対かないます。」と話してくれた言葉が私の心に強く残りました。

さて、今年は開校50周年なので、いろいろな資料を読むことが多いのですが、50年前の創刊号である校誌「おなりもん」には、初代校長の割石輝夫先生が次のような巻頭文を記しています。

私は、時の尊さをしみじみ感じるのです。“時は金なり”という言葉がありますが、時は、お金よりはるかに大切です。金はたくさん持っている人もあり、もっていない人もありますが、時はどの人にも平等で、どんな人にも1日は24時間です。どんな人も1秒の時も他の人より多く持つことは許されない。また儲けて増やすこともできない。“時の流れ”は“水の流れ”と同じであって流れ去って再び元に戻ることはできない。結局万人に平等に与えられた“時”をどのように使うかによって人の値打ちは決まるものです。

そして、“時”というものは“今”というこの一瞬の連続であることを考えなければなりません。私達にとって現実に存在する“時”は、“今”以外にはないのです。“過ぎ去った今”を過去と呼び、“未だ来らざる今”を未来と呼びます。過去は省みるものであり、未来は望み見るものであって、現実の時としては存在しない。だから“時を大切にすること”ということは“今”の一瞬を充実させることです。“今”を充実させることが、“悔いのない過去”をつくることであり、“明るい未来”を約束することになります。そして、私たちは“今”に為し得ることは1つだけです。勉強するか、スポーツに汗を流すか、作業に精を出すか、友と語るか、遊ぶか、テレビを見るか、ぼんやり物を考えるか、本を読むか、寝るか……。いろいろな中から時に応じて賢い選択をし、中途半端な時の使い方はしないでほしい。諸君が活躍する21世紀への長い道のりも、つまるところ、“今”の連続です。現在を充実して生きる以外に諸君の生涯の歴史を高貴にする道はないのです。……………

50周年ロゴマーク、



篠塚氏による長野冬季オリンピック・シンボルマーク



校誌「おなりもん」創刊号の表紙



割石輝夫校長先生の言葉は、時代を超えて、普遍的に通じる真実の言葉です。10月から学校生活では生徒会や専門委員会(部活動なども)3年生から2年生を中心にバトンが渡され、3年生は、本格的に自ら進路に向かう日々となります。合唱コンクール・学習発表会があり、11月9日の周年式典準備も始まります。皆さん一人一人が、今という時間を充実させ、今という時を大切にして、自分自身という土台を築きながら明日の自分に繋げてください。そして、仲間と共に一日一日を頑張り、実り多い10月の学校生活を送ってください。※地域・保護者の皆様、周年行事へのご協力とご支援に感謝いたします。11/9(土)式典・祝う会も宜しくお祈りいたします。